

今後の検討の進め方（案）

【資料 10-合作 1-6「今後の検討の進め方（案）」からの抜粋】

2 航空無線電話・航法システム作業班

(1) 航空無線電話システム

完全ナロー化時のチャンネルプラン策定を目指し、その途中の 25 kHz ステップと 8.33 kHz ステップの混在期間におけるチャンネルプラン策定も視野に入れ、国内動向（羽田空港の滑走路拡張、ドクターヘリの整備計画、オープンスカイ政策等）及び国際動向（ICAO 等における標準化、諸外国のナロー化／デジタル化導入実績・計画等）等を踏まえた周波数選定方法の策定（無線設備に関する技術的条件の改正の有無及び改正内容等並びに適切な検討期間及び導入時期等の検討を含む。）。

(2) 航法システム

より高密度な置局を可能とする周波数利用効率の向上方策を取り入れたチャンネルプラン策定を目指し、上記 2 の（1）同様、国内動向及び国際動向等を踏まえた周波数選定方法（特に X/Y 等チャンネルの優先順位等）の策定（無線設備に関する技術的条件の改正の有無及び改正内容等並びに適切な検討期間及び導入時期等の検討を含む。）。

航空無線電話システム

- ① VHF 無線電話システムの概要並びに技術基準（実力値を含む。）及び審査基準を整理。
- ② 国内の技術的動向（航空局等の置局現状及び航空機局のナロー化対応状況等）及び政策的動向（羽田空港の滑走路拡張、オープンスカイ政策及びドクターヘリの整備計画等に係る今後の周波数需要等）の調査検討。
- ③ 国際動向（ICAO 等における標準化、諸外国のナロー化／デジタル化導入実績・計画等）の調査検討。
- ④ 上記①から③の検討状況について、本作業班第 3 回会合に報告。
- ⑤ 本作業班第 3 回会合において、航空無線電話システムの高度化に係る技術的条件についての審議スケジュールを明確化。

航法システム

- ① VOR/DME、ILS、TACAN 等の概要並びに技術基準（実力値を含む。）及び審査基準を整理。
- ② 国内動向（VOR/DME、ILS、TACAN 等の置局現状等）の調査検討。
- ③ 国際動向（ICAO 等による置局基準等の現状、諸外国における置局現状等）の調査検討。
- ④ 上記①及び②の検討状況について、本作業班第 3 回会合に報告。
- ⑤ 本作業班第 3 回会合において、航法システムの高度化に係る技術的条件についての審議スケジュールを明確化。